



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

みんなが繋がる居場所
みらい
はうす
～shirakawa～



特定非営利活動法人
ネクストしらかわ
Nonprofit organization NEXT SHIRAKAWA

みらいはうす

ってどんなところ？

●生活困窮支援

コロナ禍の影響の長期化に伴い、孤独・孤立に陥っている生活困窮者、ひきこもり状態にある者及び生活困窮家庭の子ども等に対して、電話・SNS 相談、住まいの確保等の支援、就労に向けた支援、食料の支援、子どもの学習支援、地域活動等での就労体験の提供その他生活上の支援を行うことにより、社会的なつながりを構築・維持する事業を実施しています。



柱1 ●ひきこもり若者支援

ひきこもり状態の若者等が落ち着いて安心して過ごす（利用する）ことができる居場所であり、社会的な孤独・孤立を防ぎます。毎月第二・第四水曜日の子ども食堂では関連機関と連携した社会復帰プログラムを実施しています。

柱2 ●居場所支援

孤独・孤立に陥っている生活困窮者、ひきこもり状態にある者に対し社会的なつながりを構築・維持するための居場所を提供しています。

毎週水曜日・土曜日は子ども第三の居場としても開放しています。コロナ禍の長期化に伴い人と人との交流機会が失われています。感染対策を徹底しながら機会創出を図ります。



柱3 ●緊急時シェルター

住まいの確保に困難を抱える者に対して緊急的に居住場所を提供する支援活動です。

関係機関と連携し、即時に対応できる24時間利用可能なシェルターです。



みらいはうす 活動について



みらいはうすの活動は多岐に渡ります。そのそれぞれが互いに連携し、複雑化した課題の解決に向かいます。

数値から見る現状

※2022年12月末現在の数値

相談支援

生活困窮相談 34件
ひきこもり相談 4件（保護者）

物資支援

相談時及び居場所利用時配布 41件
イベント時物資配布 87件

シェルター

利用者 1名（のべ7日）
登録者 4名（世帯）

ひきこもり

ひきこもり相談 4件（支援機関連携）
就業 1件（支援機関連携）

第三の居場所

第三の居場所 156名（保護者 64名）
子ども食堂 55名（保護者 33名）

ボランティア

市民ボランティア 8名
企業団体ボランティア 7社（84名）

活動紹介

▼相談支援



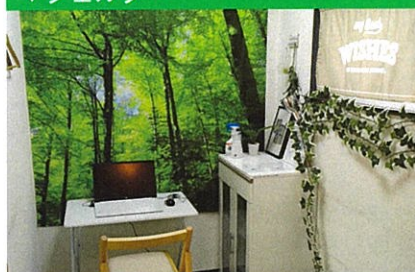
白河市のシンボル小峰城を望む、開放感にあふれたスペースです。リラックスして相談を受ける事ができます。相談スタッフは全員女性です。

▼物資支援



相談時に状況をお伺いし、即時に物資支援を実施しています。困難な状況にある“今”を大切に考えた、スピード感を重視した支援活動です。

▼シェルター



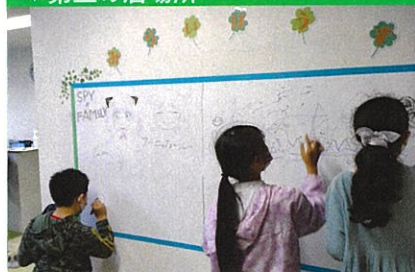
コロナ禍の影響の長期化は住まいにもその猛威を振るっています。住まいは生きる上で重要な要素です。私達のシェルターは即時に利用できるセーフティーネットです。

▼ひきこもり



人と人との交流が感染症対策という名のものと希薄化しており若者のひきこもりの現状に拍車をかけています。連携機関と共に社会との接点維持プログラムを実施します。

▼第三の居場所



保護者の生活困窮イコール子どもの貧困へと繋がります。コロナ禍の保護者の孤立・孤独も同様です。第三の居場所を通じ、環境に捕らわれないコミュニティ形成を行います

▼ボランティア



みらいはうすはみんなの居場所、地域活動のプラットフォームです。地域住民、企業が丸となって活動に取り組み、この難局を乗り越えようと頑張っています。

みらいはうす

コロナ禍における生活困窮者、ひきこもり状態にある者及び生活困窮家庭の子ども等の支援という複雑化かつ長期化する難題をどのように解決に導くか...

困難な課題ではありますが、私達は民間団ならではの柔軟な施策を実施しています。

・相談者を待つだけではない施策

みらいはうすのドアを開けているだけでは、なかなか相談に来ていただく事は難しい...私たちの取り組みをご覧ください。(右ページ)



・公式ラインを活用した相談&案内

昼夜問わず24時間メッセージで相談対応。現代ならではの場所と時間の制約を取り払う施策です。登録者にも一斉にメッセージの配信が可能です。支援の情報を逃すことなく伝える事が可能です。



・SNSでの情報発信

Twitter・Instagram・Facebookで活動を広範囲に発信しています。これまで活動を知らなかった対象者に広く伝えるきっかけになります。



・地域団体との連携

地域の団体と連携し、それぞれの得意分野を掛け合わせ活動を実施する事で課題解決へ大きく前進します。地域の団体が手を取り合い、横の繋がりを広く持つ事が大切です。



イベント交流会

「みらいはうすに行ってる人は困っている???」生活困窮支援を謳う活動は、このジレンマに悩むこととなります。いわゆる世間の目が気になり、支援団体へ足を運ぶ事をためらってしまう現状があります。

目に見えない支援対象者とどのように接点を持つか?そして継続した支援につなげるにはどうしたらよいか?

私たちの出した答えは「交流」です。コロナ禍で失われたものを取り戻し、より良い支援へと繋がります。



6月22日
フードパントリー&みらいはうす縁日

8月10日
なかまち子ども食堂夏休み!



12月22日
なかまち子ども食堂クリスマス

イベントをきっかけに相談・居場所利用に繋がる事多数!

即時対応が嬉しかった



一般的にコロナ禍の支援を受けられるかは前年度の収入が基準になります。我が家は夫婦共働きで基準を満たせず支援が受けられない家庭です。みらいはうすさんは相談から現状を理解して下さり、面倒な審査など無くすぐに支援してくれました。（白河市 40代女性）

ひきこもりの娘の事

これまでひきこもりの娘の事で様々な公的支援も受けてきました。なかなか就職等に繋がらず悩んでいました。そんな中、子ども食堂を通じたボランティア活動に参加させていただき、社会復帰への第一歩を踏み出す事ができました。（白河市 50代夫婦）



利用者の声

みらいはうす利用者のアンケート



活動連携団体

活動を通じ、地域団体との連携体制が構築されています。



NPO法人わくわく わくわく子ども食堂・サードプレイス



連携内容：子ども第三の居場所支援、子ども食堂支援、食材支援

福島県南地域若者サポートステーション しらかわ常設サテライト



連携内容：若者就労相談支援

支援を受けづらいのですが...



結婚したばかりで子どもも居ません。夫婦とも飲食関係で働いていたのでコロナ禍で収入が減ってしまいました。周囲からは「若いんだからもっと頑張れ」と言われます。辛いのはみんな同じだと思います。みらいはうすさんはその点柔軟に対応してくれました。（西郷村 20代女性）

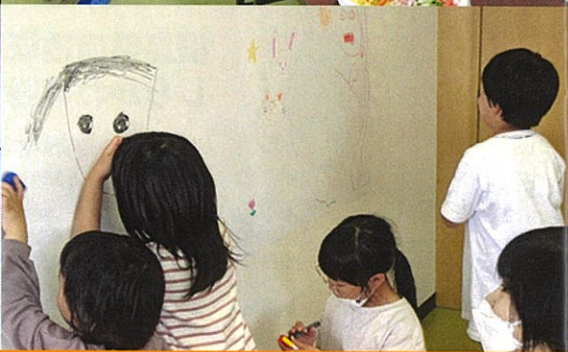
時間と場所を問わない支援

小さい子どもが居ます。子育てと仕事の両立が難しく悩んでいました。相談に行きたくても行けない時、LINE相談は助かりました。夜に子どもが寝た後の遅い時間にも対応して下さりありがとうございました。誰かと繋がっている安心感は嬉しいです。（白河市 30代女性）



◆今年度活動に協力をいただいた機関・企業◆

白河市子ども支援課、福島県南保健福祉事務所、地域生活支援センターけんなん、福島県社会福祉協議会生活自立サポートセンター、白河市社会福祉協議会、ホンダ労働組合、明治安田生命白河営業所、ホンダカーズ東白川、株式会社林間制服販売Pasca黒磯店、株式会社アーネストワン（順不同）





みんなが繋がる居場所
**みらい
はうす**
～shirakawa～

〒961-0951
福島県白河市中町57-1 穂積ビル2階
(旧穂積医院)

Tel : 080-3429-6685
13:00～18:00 (定休日：日月祝)



※東北本線白河駅より徒歩2分

みらいはうす

検索

<https://miraihouse-shirakawa.com/>



発行者：特定非営利活動法人NEXTしらかわ